

特集

世界に発信できる日本の 作業療法教育のあり方

特集にあたって

日本の OT は、資格制度、有資格者数、養成校数、養成課程（期間）等、どの側面を取り上げても、この半世紀足らずの年月で成熟し、世界的にみて引けを取らない状況となった。ただ、急激な変化のため、指導者数が少なく成長過程の若手が多くなり、結果として卒後教育が不十分となる側面もある。また有資格者数を増やすことを優先したため、養成校数が増え、経験豊富な教員が少なく、卒前教育も十分とはいえない状態が続いている。

そのような情勢の中、来年には第 16 回世界作業療法士連盟大会が横浜で開催される予定である。これをきっかけに本特集では、世界に発信できる日本の作業療法教育を取り上げた。

まずは、作業療法教育の内容と期間に関する世界基準と、その基準に則した講義・演習の提案を述べていただいた。そして、近年の若者の弱点とされている、挨拶・マナー・コミュニケーション等の情意領域の教育について論じていただいた。また、OT は一生研鑽を積み重ねることが必要な職種であるため、卒前教育での実習と卒後研修に関する新しい試みにも触れていただいた。

どれも読みごたえのある論文である。どうか養成校教員のみならず、臨床教育に関わっている OT の方々にもぜひ、熟読していただきたい。
(鈴木孝治)

作業療法教育における 4 年制教育課程への移行

世界基準の能力をもつ作業療法士を育成する教育

世界基準に沿った作業療法教育の試み

作業療法教育における情意領域の育て方

臨床実習の質の向上に向けた研修制度と提言

コラム：作業療法学生の心を育むープレイバックシアターワークショップを通して

企画
担当

鈴木孝治（国際医療福祉大学、作業療法士）

澤 俊二（藤田保健衛生大学、作業療法士）

竹内さをり（甲南女子大学、作業療法士）